

平成23年度第1回公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日 時：平成23年4月18日（月）14時30分～16時00分

場 所：熊本県立大学大会議室

出席：学長	古賀 実
副学長	半藤 英明
事務局長	益田 和弘
文学部長	山田 俊
環境共生学部長	有蘭 幸司
総合管理学部長	三浦 章
地域連携センター長	篠原 亮太
学術情報リサーチセンター長	津曲 隆
アドミニストレーション研究科長	黄 在南
熊本県公立高等学校長会会長	真開 純洋
前熊本近代文学館館長	河原畑 廣
昭和女子大学教授	渡辺 満利子

事務局：渡辺事務局次長、林田教務入試課長、高橋学生支援課長、馬場総務課長、阪本企画調整室長、田中学術情報リサーチセンター事務長、枝國地域連携センター事務長、教務入試課元島班長、同課西本主幹、企画調整室安達主幹

1 開会（進行：渡辺次長）

2 学長挨拶

3 議事（議長：古賀学長）

（1）審議事項

① 平成24年度入学者選抜の実施方針案について

事務局教務入試課から、資料1に基づき、「平成24年度の学部の入学者選抜は、選抜方法、入学定員、募集人員及び日程は昨年度と同様で実施予定。実施方法については変更点があり、環境資源学科及び居住環境学科の一般・前期日程の個別学力検査の対象から数学を外している。大学院入試については、大きな変更点がある。環境共生学研究科とアドミニストレーション研究科の博士後期課程で、10月入学制度を導入することとしており、募集人員は若干名としている。年間スケジュールとしては、オープンキャンパスは7月24日、7月31日に開催予定。入試は9月の総合管理学部のAO入試からスタートする。」と説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

② 平成25年度熊本県立大学（一般入試）の実施教科・科目等案について

事務局教務入試課から、資料2に基づき、「試験科目等の変更が志願者の準備等に大きな影響を及ぼすため、文部科学省の通知で試験実施の2年前に教科・科目を予告公表することとされている。平成24年度一般入試の実施教科・科目からの変更内容は、総合管理学部の公民に「倫・政経」を追加したこと。」との説明があった。

続いて、三浦総合管理学部長から、「総合管理学部は、これまでと同様に平成25年度一般入試においても前期試験で二次試験を導入しない。二次試験については、合格最低点又は志願倍率が一定の基準未満となった場合に実施することが平成20年度の教育研究会議において議決されている。平成23年度一般入試前期日程B方式の志願倍率がその基準未満であったため、二次試験の実施について学部で検討した。その結果、センター試験を利用する入試は、経済的負担という観点において幅広い地域から受験しやすい制度になっていること等の理由により、平成25年度の一般選抜・前期日程においては二次試験の導入を見送ることとし、今後、試験区分毎の入学者の成績データ等を基にして継続的に議論していくこととしている。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

(2) 報告事項

① 平成23年度一般入試における追加合格者決定について

事務局教務入試課から、資料3に基づき、「一般入試前期日程で英語英米文学科において欠員が1名、一般入試後期日程で食健康科学科において欠員が2名生じたため、3月28日に追加合格者決定の手続きを行った。」との報告があった。

② 平成23年度入学者の状況について

事務局教務入試課から、資料4に基づき、「入学者の状況は、男性の割合は36.0%と前年度より4%程度増加、県内出身者は81.0%で昨年度より増加し平成20年度と同程度になっている。学部の定員充足率は、全体で109.4%であり、日本語日本文学科が最も高い。九州外からの入学者は18名で2名の減。九州内からの入学者は82名で2名の減。逆に県内の入学者は22名の増。出身校別では、県内は熊本北高等学校が前年から17名増で39名と最多。県外の最多は鹿児島の大島高等学校で志願者4名全員が入学している。大学院の入学状況については、全体の定員充足率は86.9%となっており、英語英米文学専攻の博士後期課程は実績がなかった。」との報告があった。

③ 平成22年度4年生アンケート調査結果について

事務局教務入試課から、資料5に基づき、「このアンケートは、平成20年度から実施し今回が3回目。今回は、不満及びやや不満については、その理由を記入するようにし、総

括的な自由記述欄を設けるとい見直しを行って実施した。実施時期は平成22年12月から23年2月。質問内容は①学生の属性、②教育に対する満足度及び重要度、③学生サポートや学生サービスに対する満足度、④施設・設備に対する満足度、⑤大学生活の満足度等の5問。回収率は全学で85.5%。結果としては、本学の教育の中で満足度が高い項目は、「目標とする先生や目標を持った仲間に出会え、切磋琢磨すること」、「幅広い視野や考え方を身につけること」。本学の教育における重要度が高い項目は、「コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけること」、「目標とする先生や目標を持った仲間に出会え、切磋琢磨すること」。満足度と重要度の差が最も小さい項目は、「専門分野の研究に触れること」。逆に、満足度と重要度の差が最も大きい項目は、「外国語能力を身につけること」であった。また、大学生活の満足度については、「満足」及び「やや満足」とする回答の合計が95.1%となっており、「親戚や後輩等に本学を勧めるか」という問については、「勧めたい」、「本人の志望動機が本学に沿っていれば勧めたい」とする回答の合計が88.8%であった。」との報告があった。

④ 平成23年3月卒業生の就職等状況について

事務局学生支援課から、資料6に基づき、「平成20年後半からの世界的な金融不安による景気悪化の影響を受け、平成22年度卒業生の全体の就職率は、平成23年3月31日現在で84.9%であり、前年度同期と同様に厳しい結果となっている。学部別では、文学部70.0%、環境共生学部91.3%、総合管理学部86.5%。業種別では、景気悪化により公務員志望の増加が目立っている。2012年卒採用も厳しい状況が予想されており、キャリアセンターにおいては、熊本県の事業により就職相談員を一人増員し求人開拓に力を入れることとしている。」との報告があった。

⑤ 非常勤講師の採用について

事務局教務入試課から、資料7に基づき、「文学部の学部共通科目『中国文学史Ⅰ』『中国文学史Ⅱ』の担当として採用が決定していた非常勤講師1名について、4月初めに一身上の都合により辞退の申し出があり、新たな講師を採用するする必要が生じたことから、4月8日付けで1名の採用を行った。」との報告があった。

4 その他

今回会議をもって委員辞任となる真開委員から挨拶があり、古賀学長から謝辞を述べた。
次回日程 平成23年度第2回 5月16日(月)午後2時30分～ 本部棟2階大会議室

5 閉会